

特集：新しいエイズ対策の展望

第二部：地域における先駆的エイズ対策の取り組み

MSM コミュニティーにおけるコミュニティセンターの役割と活動

市川誠一¹⁾, 張由紀夫²⁾, 佐藤未光³⁾

¹⁾ 名古屋市立大学看護学部

²⁾ 財団法人エイズ予防財団 / 流動研究員 / コミュニティセンター akta/Rainbow Ring

³⁾ ひかりクリニック / コミュニティセンター akta/Rainbow Ring

The Activities and Role of the Gay Community Center 'akta' in HIV Prevention within the Gay Community in Tokyo

Seiichi ICHIKAWA¹⁾, Yukio CHO²⁾, Mio SATO³⁾,

¹⁾ Infection Control and Prevention, Nagoya City University, School of Nursing

²⁾ Japanese Foundation for AIDS Prevention/Community Center akta/ Rainbow Ring

³⁾ Hikari Clinic/ Community Center akta/ Rainbow Ring

抄録

HIV 感染者及びエイズ患者の報告数は1996年以降日本国籍男性を中心に増加が続いている。特に男性同性間の性的接触による報告例が日本国籍 HIV 感染者では60%を超え、エイズ患者でも40%を超える状況となっている。さらに、近年では東京に加え大阪、愛知でも著しい増加となり、さらに福岡、沖縄などの地方においても増加の兆しにある。

コミュニティセンター・akta は、ゲイ・コミュニティに根ざした予防啓発活動をすることやゲイ・バイセクシュアル男性のアクセスのしやすさを考慮して、ゲイ商業施設等が集中している新宿2丁目に設立した。

東京地域の多様性に富んだゲイ・コミュニティにおいて、HIV 感染についての啓発を効果的に起こす方法をコミュニティセンター・akta において模索してきた。コミュニティベースの予防啓発としては、ゲイバーとの協力によるコンドームアウトリーチ、クラブイベントでの啓発、ハッテン場との協力による啓発、また東京都との協働による若者向けやハッテン場向け講習会などのプログラムを行ってきた。当事者の活動は、訴求性の高い啓発資材や啓発手法を具体化し、ゲイ・コミュニティとの連携を推進してきた。コミュニティセンター・akta はその活動の拠点として存在意義が大きい。ゲイ・コミュニティに開かれた場、街の人々（ゲイ・バイセクシュアル男性）が自由に訪れることができる場として運営されることが大切と考える。また、デリバリーボーイのアウトリーチ活動は商業施設との連携を高め、ゲイ雑誌等のメディアからの支援、クラブイベントの主催者との連携、NPO 法人ふれいす東京との協働、HIV 陽性者との資材作成などが、啓発普及を一層に促進するものとなっている。

キーワード： MSM, ゲイ・バイセクシュアル男性, HIV, AIDS, 予防

Abstract

HIV transmission through homosexual contact continues to rise, accounting for 60% of HIV and 40% of AIDS new reports in Japan. In particular, HIV infections have been rapidly increasing, not only in Tokyo and Osaka, but also in Nagoya, Fukuoka and Okinawa.

'akta' was established in Shinjuku 2 Chome in 2003, an area in Tokyo which has a large concentration of gay commercial venues, in order to conduct and facilitate HIV prevention activities amongst gay and bisexual men, through funding provided

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

1 Kawasumi, Mizuho-cho, Mizuho-ku, Nagoya, 467-8601, Japan.

by the Foundation for AIDS Prevention.

While the Tokyo area has a wide range of socially and sexually diverse gay and bisexual men and groups, evaluation research indicates that 'akta' has been effective in accessing a wide range of groups and in developing and HIV prevention materials and programs. The existence of the Community Center has facilitated a number of outreach programs including 'Deli-he(a)l(th)' which provides condom outreach to gay bars and clubs, as well as the conducting of education workshops with young gay men and gay sauna staff funded by the Tokyo municipal health department.

Community center 'akta' conducts a wide range of activities and its existence has facilitated the condom outreach activities conducted by 'Delivery Boys', attracted support from the media including gay magazines and club event organizers, as well as fostered cooperation with NGOs such as PLACE Tokyo (a CBO who provides support to people living with HIV and AIDS) in developing materials and community education projects to make visible the existence of peoples living with HIV and AIDS within the gay community.

The activities of the Community Center have been driven by a community development approach, and through the involvement of artists, designers and drag queens in developing materials and organizing events, the center has allowing a large number of gay community members to network and connect in a way that would not have been previously possible. Culturally appropriate materials and programs designed by gay staff have ensured that outputs have been of a high quality. Furthermore, the establishment of the center has been critical in creating a cultural and social focal space for gay and bisexual men to meet, get information and hold events.

Keywords: MSM, Gay-bi sexual male, HIV, AIDS, Prevention

1 はじめに

厚生労働省エイズ動向年報によれば¹⁾, 未発症 HIV 感染者 (以下, HIV 感染者) 及びエイズ患者の報告数は 1996 年以降日本国籍男性を中心に増加が続き, 中でも男性同性間の性的接触による報告例が日本国籍 HIV 感染者では 60% を超え, エイズ患者でも 40% を超える状況となっている. 近年では東京に加え大阪, 愛知でも著しい増加となり, さらに福岡, 沖縄などの地方でも増加の兆しにある. 厚生労働省「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針見直し検討会 (エイズ予防指針検討会)」はこのような状況を鑑み, 個別施策層である同性愛者に対する普及啓発は, 「行動変容を個々人の自己決定にのみ期待するのではなく, 行動変容を起こしやすくするような社会環境を醸成していくことが必要不可欠であり, 地方公共団体は同性愛者に対する普及啓発の拠点を確保する『コミュニティセンター事業』を活用し, 普及啓発のマニュアル化などによって効果的な普及啓発事業活動の定着を図る必要がある」としている.

本報告では, ゲイ・バイセクシュアル男性が利用する商業施設の集積する新宿 2 丁目に開設したコミュニティセンター・akta を中心に実施しているゲイ・ボランティア団体の活動とその意義について報告する.

2 「場」があるということ

1) コミュニティセンター・akta という「場」の役割

地域には市民に向けて開放している図書館や公民館がある. そこは市民が自由に立ち寄り, 色々な情報を得ることができ, また市民自身が様々な活動を展開できる場となっ

ている. しかし, ゲイ・バイセクシュアル男性が彼らの活動のためにこれらの施設を自由に利用することは困難な状況にある. ゲイ・バイセクシュアル男性が利用できる公民館のような「場」が街の中にあって, 街の人 (ゲイ・バイセクシュアル男性) たちに必要な情報を広報する機能があれば, 街のさまざまなイベントなどの情報が集まるようになり, 街の人たちは自分に必要な情報を求めて公民館に集まってくるようになる. また, HIV に関連した啓発活動を展開する拠点としての「場」が街にあれば, 街の人たちに必要な HIV の情報を広報する機能を持つことになる. さらに街のゲイ・アーティストやデザイナーが個展を開く「場」があれば, 街のさまざまな人たちが参加するためにそこにやってくるようになる.

ゲイ・バイセクシュアル男性が色々な情報を得るためにふらっと立ち寄り, その中に HIV / エイズの情報もある. 街の中にあるネットワークをつないでいく「場」があれば, そのネットワークによって HIV の情報は普及し, 浸透していくことが期待される. コミュニティセンター・akta は, こうした視点から東京都新宿区新宿 2 丁目 (以下, 新宿 2 丁目) の街の中に 2003 年に開設された.

2) コミュニティセンター・akta の効果

新宿 2 丁目は商業施設としておよそ 300 軒のゲイバーに加えゲイショップ, クラブ, ハッテン場などが集積している日本最大規模の地域型ゲイ・コミュニティである. ゲイ・バイセクシュアル男性が集まり交流する場としての歴史も古く, 現在では一日に数千人のゲイ・バイセクシュアル男性が出入りしている. 週末にはクラブイベントなどが開催されるため, 全国から同性愛者が訪れてくる. 新宿 2

丁目以外にも主に上野・浅草地域、新橋地域、渋谷地域にも商業施設が集積している。主なゲイ雑誌社も都内に存在しており、これらのメディアとの協力は東京のみならず全国に波及する可能性がある。しかし一方でインターネットの普及などにより、地域型コミュニティやハッテン場、ゲイ雑誌にアクセスしない人も徐々に増加してきており、東京地域のゲイ・コミュニティの多様性は拡大しつつあると言える。

コミュニティセンター・akta は、財団法人エイズ予防財団の MSM（男性と性行為をする男性）を対象とする「男性同性間の HIV/STI 感染予防に関する啓発事業」として開始され、4 年目を迎えている。ゲイ・コミュニティに根ざした予防啓発活動を行うことや HIV/エイズに無関心な層を呼び込むこと、そしてゲイ・バイセクシュアル男性のアクセスのしやすさを考慮して、ゲイ商業施設等の集中している新宿 2 丁目に設立した。入りやすくくつろぎやすい雰囲気を第一義に考え、展示も可能なスペースとし、ゲイ NGO である Rainbow Ring が運営を担っている^{2,3)} (図 1)。



コミュニティセンター[アクタ]
東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル301号室
開館:16時~22時 休館日:毎月第2日曜日・年末年始

図1 コミュニティセンター・akta(東京)
(財)エイズ予防財団・エイズ予防啓発委託事業

工夫されたプログラムをさまざまに展開してきたことで、akta は啓発活動の拠点として新宿 2 丁目での認知を高めている。2005年に実施した都内のクラブイベントに参加する MSM を対象としたアンケート調査は、「新宿 2 丁目への来所頻度の高い MSM は akta の認知率が高く、また akta に訪れる者の割合も高い」ことを示している⁴⁾ (図 2)。

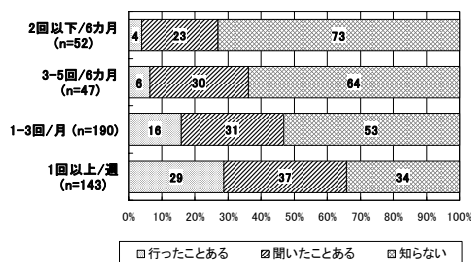


図2 新宿二丁目来訪頻度別にみた
コミュニティセンターaktaの認知度

コミュニティセンター・akta はゲイ・コミュニティ、自治体、NPO/NGO などが連携する場ともなっている。ゲイ・コミュニティでコンドームアウトリーチを進めるにあたってはゲイ関連の商業施設と連携した活動を進める拠点となり、またゲイ・コミュニティへの関わりが困難であった自治体のエイズ担当者が当事者と交流する場となり、MSM 対象の HIV 感染対策事業が具体化される場となっている (図 3)。

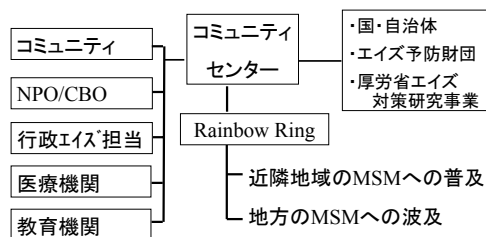


図3 コミュニティセンター・akta の連携

3) コミュニティセンター・akta の事業

コミュニティセンター・akta では主に以下の事業を行っている。

- ・啓発やコミュニティに関する情報の提供
- ・HIV 関連の啓発資材の開発と紹介
- ・啓発資材の配布 (資材作製・配送・デリヘルプロジェクト (後述) など)
- ・HIV/AIDS に関わる人たちの利用 (ミーティングや研修など)
- ・学習の場 (ワークショップや講演会など)
- ・コミュニティスペース (展示スペースなど)

コミュニティセンター・akta では、コミュニティのアーティストが展示スペースとして活用できるように一部のスペースを開放している。ここで開催される展示会や音楽などのイベントプログラムはその主催者のネットワークで来場者を呼び込む効果があり、ふだん HIV に関心がない人たちも来場する機会となっている。また展示会等で akta を利用した人や来場した人たちとネットワークを形成することで、そのネットワークを活用した啓発資材・啓発プログラムの開発や普及が促進されている。2005年1年間の延べ来場者数はおよそ1万人である。

来場者の増加に伴い、来場者からの相談も増えてきている。相談内容としては HIV に関すること (主に「HIV 検査機関」「感染不安」「治療について」「感染者周囲のケア」など) が多く、ついで「性感染症」「脱法ドラッグ」である。これらの相談に対しては専従スタッフが対応し、相談内容を傾聴するように努め、必要に応じて他の NGO の電話相談を紹介している。また、緊急を要する場合のために、検査・医療機関や治療についての情報資料をそろえ、インターネットを利用して情報が引き出せるような工夫をしている。

なお, akta の情報紙として「マンスリー akta」を毎月5000部発行し, デリヘルプロジェクト(後述)によるアウトリーチや既存のイベントを通じて配布している. akta の月間予定, コミュニティ情報, 医療や検査情報, Rainbow Ring の予防啓発活動の紹介などを掲載している.

3 顔の見える活動

1) アウトリーチプログラム・「デリヘルプロジェクト」(健康を運ぶプロジェクト)

デリヘル(デリバリーヘルスの略)は, コンドームや他の啓発資材をバーやクラブに配布するアウトリーチ活動のことで, この活動のボランティアスタッフをデリバリー・ボーイと呼んでいる. ゲイバーおよびゲイクラブは新宿二丁目の重要な構成要因であり, 一日に数千人のゲイ・バイセクシャル男性が利用していると言われている. このアウトリーチ活動は, その顧客や従業員を対象に, コンドームをきっかけとしてエイズや性感染症, セーフーセックスを身近に意識してもらうことを目的としている.

2003年7月に主にフライヤー(広報チラシ)を媒体として「デリバリーボーイ」を募集し, 同年9月からは毎週金曜日にコンドームを配布する活動を開始した. 啓発活動をコミュニティに可視化するというねらいから, デリバリーボーイはおしゃれ感のあるつなぎのユニフォーム姿で, 資材を持って akta から新宿2丁目の街の中にアウトリーチに出かけていく. 配布するコンドームパッケージは初め7種類のデザインを用意し, その後も4000個単位でデザインを変えて作成し, 配布している(図4). デザインを変えることのねらいは, 常にこのプロジェクトに関心を抱かせること, 年齢だけでなく多種多様な嗜好を考慮して訴求性を図ることにある. また, バーやクラブに設置する配布コンドーム用のディスペンサーは, 協力施設の営業の邪魔にならないよう設置場所を選ばないサイズとし, 制作費の点でも長期に展開する活動であることから安価に一体成型で作成できるダンボール紙製の折りたたみ式オリジナル・ディスペンサーを考案した(図4).

デリヘルプロジェクトでは, 若年層のボランティアスタッフ(20歳代前半)が活動の中心となっている. 彼らの多くはパンフレットやインターネットなどの募集広告を見て, 「かっこいい」「楽しそう」というイメージから参加している. これまでにスタッフの出入りがあったものの, 毎週の無償の活動が維持できている. スタッフのモチベーションの維持は, バーなどへのアウトリーチが楽しい経験となり, デリヘルの活動を通してゲイ・コミュニティに参加できることに起因している. また, 予防啓発活動に参加することが, 彼ら自身も啓発される機会になっている. 配布人員は各回7-10人で140-150軒の店舗にコンドームを配布している. このデリヘルプロジェクトの活動は, その後ゲイ雑誌の特集に掲載され, 東京のみならず全国的に知られる活動となった. デリヘルプロジェクトは, 商業施設とのコネクションの形成, Rainbow Ring の広告塔とし

ての機能を併せ持つ役割を担っている.

4 街の人たちと一緒につくるということ

1) 様々なアーティストが開く akta での展示会の効果

akta では, ゲイ・コミュニティで活躍しているアーティストによる展示会を開催し, また講演会や映画上映会などを行っている. これらの企画に興味を持つ人たちが集まってくることは, 結果として「HIV/エイズに無関心な層」を akta に呼び込むことに繋がっている. また, 展示を実施したアーティストは akta の活動に理解や興味を示す機会となり, 展示会後には啓発資材の作製への協力が得られるなどの効果が見られている. akta は, 啓発活動とコミュニティの人たちとの連携の場となり, 活動を広げていく役割を果たしているといえる.

2) 様々なデザイナーによるコンドームパッケージの効果

これまでに作成したコンドームパッケージのデザインは62種類にのぼっている. これらのデザインの中には, ゲイおよびゲイ以外のアーティストやデザイナーの協力によって作成されたものも多く, その結果として多種多様な嗜好の層に対して訴求性のある啓発資材を提供することができている(図4). これらの様々なデザインのパッケージは, バーやクラブでの会話の材料となり, また結果として akta の活動の継続的な認知にもなっている. さらに, これらのデザイン作成に協力してくれたアーティストやデザイナーはコミュニティのキーパーソンでもあり, これらのキーパーソンへの啓発資材作成への参加は, コミュニティの中に HIV を可視化していく上で大きく貢献している.

街にいる人たちのこうした啓発活動への参加は, 広告代理店等による資材作成とは異なり, 街に集まる人たちのニーズを感知した資材作成となっている. 街の人たちの協力が, コミュニティの中に HIV の話題を投げかけ, そして訴求していくことがコミュニティ意識を形成し, HIV に対する意識を広めていくことになるものと考え.

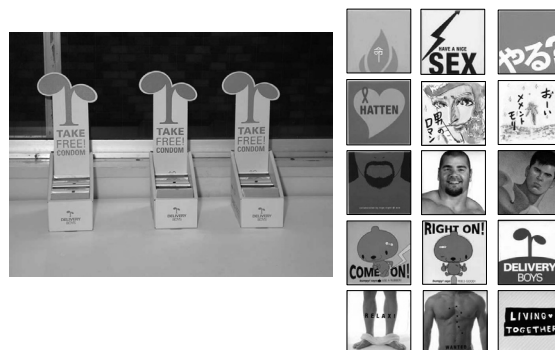


図4 コンドームアウトリーチ資材
ーコンドームディスペンサー及びコンドームパッケージー

3) 既存の NPO との協働

Living Together 計画は NPO 法人「ぶれいす東京」が「HIV 陽性者と共に生きる」をテーマに akta で展示会を開催したことから始まったプロジェクトである。ぶれいす東京発刊の小冊子「Living Together」の写真を撮影した写真家による展示や、HIV 陽性者やその家族、友人が綴った手記の展示やリーディングの会から始まった。その後、ライトミュージックの生演奏と手記のリーディングを合わせたイベント「Living Together Lounge」を街の中で毎月開催するようになった(図5)。「Living Together Lounge」は、ミュージシャン、リーディングを依頼された医療者、行政、著名人など様々な領域の人たち、会場に参加した人たち、そしてイベント会場のスタッフとの共同作業で成り立っている。毎回50人以上の来場者があり、セクシュアリティを超えて大きな感慨を与えている。

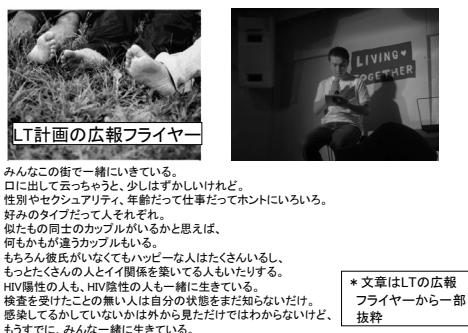


図5 Living Together(LT)計画
— Living Together Loungeの実施例—

また、これに関連したプログラムとして「EASY! キャンペーン」を2005年12月1日から30日まで実施した。「EASY! ~ Living Together is Easy (感染者と共に生きること決して難しいことではない)」ということをして「EASY!」という言葉に集約させ、既存のゲイ対象のイベントやゲイミックスイベント(38件)の協力を得て、啓発資料(コンドームセット5105個、啓発フォトブックを2785部)を配布するなど無関心層への普及を図ることができた。

Living Together 計画は NGO 同士が連携したプログラムであるばかりでなく、企画を具体化し、資料を作成するにあたっては多くの HIV 陽性者が関わり、たくさんの意見交換をしつつ進められてきたプログラムである。このプログラムの参加者は「HIV 陽性者とすでに一緒に生きている」ということを実感することで、HIV 感染を自身に関連したこととして可視化できるようになり、予防への意識が生まれる機会となっている。

5 最後に

東京地域の多様性に富んだゲイ・コミュニティにおいて、HIV 感染についての啓発を効果的におこなう方法を

模索してきた。コミュニティベースの予防啓発として、ゲイバーとの協力によるコンドームアウトリーチ、クラブイベントでの啓発、ハッテン場との協力による啓発、また東京都との協働による若者向けやハッテン場向け講習会などのプログラムを行ってきた。当事者が参加する啓発は、訴求性の高い啓発資料や啓発手法を具体化し、ゲイ・コミュニティとの連携を推進してきた。啓発拠点 akta はその活動の基盤としての存在意義が大きく、また、コミュニティに開かれた場、街の人々が自由に訪れることができる場として運営されていることが大切である。また、デリバリーボーイのアウトリーチ活動の継続は商業施設との連携を高め、ゲイ雑誌等のメディアからの支援、クラブイベントの主催者との連携、NPO 法人ぶれいす東京との協働、HIV 陽性者との資料作成などが、啓発普及を一層に促進するものとなっている。

謝辞

本論文は、平成14-16年度厚生労働科学研究費補助金・エイズ対策研究事業「男性同性間の HIV 感染予防対策とその推進に関する研究」(主任研究者・市川誠一、課題番号 H14- エイズ -002) および平成17-18年度厚生労働科学研究費補助金・エイズ対策研究事業「男性同性間の HIV 感染対策とその評価に関する研究」(主任研究者・市川誠一、課題番号 H17- エイズ -004) によるものである。

参考文献

- 1) 厚生労働省エイズ動向委員会：平成18年エイズ発生動向年報，平成19年5月。
- 2) 佐藤未光，他。東京地域における男性同性間の HIV 感染予防対策とその推進。厚生科学研究費補助金エイズ対策研究事業「男性同性間の HIV 感染予防対策とその推進に関する研究」(主任研究者：市川誠一、課題番号 H14- エイズ -002) 平成16年度総合研究報告書。2005年3月。p. 21-33。
- 3) 佐藤未光，他。東京地域における同性間の HIV/STI 感染予防啓発の普及促進に関する研究。厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「男性同性間の HIV 感染対策とその評価に関する研究」(主任研究者：市川誠一、課題番号 H17- エイズ -004) 平成17年度総括・分担研究報告書。2006年3月。p. 33-41。
- 4) 木村博和，他。東京地区のクラブイベント参加者に対する質問紙調査結果の概要。厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「男性同性間の HIV 感染対策とその評価に関する研究」(主任研究者：市川誠一、課題番号 H17- エイズ -004) 平成17年度総括・分担研究報告書。2006年3月。p. 135-146。